

いまもあしたも誇れる座間であるために...

発行者：おぎはら健司  
発行元：座間市相模が丘3-24-2-203  
連絡先：046-204-5911 (ファックスも同じ)

# おぎはら健司の市政レポート

## 平成25年度決算認定PART2

二週続けての台風が気になります。今週始めに上陸した台風18号の被害は、座間市内では幸いな事に大きな被害はありませんでしたが、19号は前回以上に強い勢力を保ったまま関東地方へ近づいて来るとの予報ですので、皆さんも準備は怠りないようお気をつけ下さい。

さて、前置きが長くなりますが、本日は前回東京五輪の開幕日です。現在では当たり前のようで開催されている障がい者の五輪「パラリンピック」ですが、初開催となったのは前回東京五輪との事で、今回のパラリンピックの大成功にも期待いたします。なお、10月10日は晴れの特異日で、科学的根拠はないそうですが、過去30年間の統計では70%が晴れとの事です。

それでは表題について、前号では決算内容について財政調整基金と歳入・歳出それぞれに於ける現状についてお伝えいたしました。今回は歳出について詳しくお伝えしたいと思います。

歳出を「義務的経費」「投資的経費」「その他の経費」に分類すると、市に支出が義務付けられ、極めて硬直性の高い義務的経費は前年度と比較して1.5%、3億824万5千円減少し、支出の効果が資本形成に向けられる投資的経費は58.5%、7億2,818万8千円増加し、その他の経費は0.7%、9,665万6千円減少しています。

この数値を、前年度決算と構成比率で比べてみると、義務的経費は1.4%減少して全体の57.2%、投資的経費は2.0%上昇し5.5%、その他の経費は0.6%減少し37.3%となり、義務的経費の減少分が投資的経費に向けられている事が分かります。

この増加した投資的経費の主なものは、芹沢公園整備事業費や北部地区総合交通対策事業費、小学校普通教室等空調整備事業費等で、平成20年度から24年度までの5年間の投資的経費の平均年間支出額は13億2,517万5千円、平均構成比は3.9%でしたが、25年度は19億7,345万8千円、5.5%となっており、積極的なインフラ整備が推進されている事が分かります。

もちろん、これらの公共インフラは多ければ良いという性質のものではありませんが、義務

的経費を削減して投資されているという点では評価をすべきと考えております。

次に、社会福祉費や児童福祉費、生活保護費といった民生費に加え、保健衛生費や予防費等の衛生費、教育費を合わせたもののうち、人件費等を除いた「扶助費」を抜粋して分析すると、歳出総額に占める割合は29.7%となりますが、過去5年間で22.1% (21年度) から30.1% (24年度) と加速的に増大してきましたが、25年度では前年比 - 0.7% とわずかですが減少し、さらに詳しく分析すると、扶助費の99.1% を占める民生費のうち、社会福祉費が1.6% 増の20億9,266万円余、児童福祉費がほぼ増減なしの44億1,089万円余、生活保護費は2.3% 減少の40億1,538万円となっており、以前にもお伝えしたとおり座間市独自の生活保護増への対策が奏功していると考えます。

ちなみに、平成25年度の政令市を除いた県下16市に於ける市民1人当たりの性質別経費額は、座間市の人件費50,259円は16番目と最も少なく、逆に扶助費は81,951円と最も多くなっています。

前号でも示した通り、増大する社会保障費対策を講じる事が求められます。

## 教育常任委員委員長を拝命！

9月29日に閉会した平成26年第三回定例会の最終日に、今後1年間の議会に於ける正副議長を始めとする役職が決定しました。

前号でもお伝えしたとおり、特別委員会では基地対策特別委員会の委員からはずれる事となりましたが、常任委員会では1年間所属した都市環境常任委員会から、教育市民常任委員会に移り、議会運営委員会での互選の末、委員長職を拝命する事となりました。議員三年目での委員長就任に、気分一新、座間市の教育行政や住民サービスの更なる向上に務めてまいります。

また、議会改革が進められている座間市議会ですが、ICT化に関する課題について協議する「議会ICT化推進検討会」のメンバーも引き続き拝命する事となり、この一年も充実した時間を過ごす事が出来そうです(^;)